

424 南部フォッサ・マグナ西縁部のテクトニクス

角田史雄(埼玉大学・教養)

南部フォッサ・マグナ地域では、南西半部で火砕岩の量が多く、かつ、箱型褶曲がよく発達する(1図)。

basinの中心の移動は、南西半部のそれは丹沢、御坂、檜形を中心として、いろいろな方向をむいている。一方、北西半部のそれは北方か東方へむかい、ほぼ一定している(2図)。

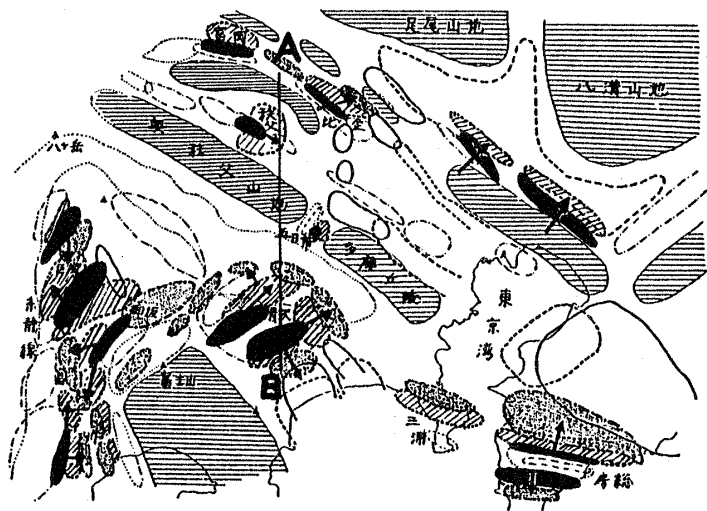
構造発達断面をみると、現在の関東山地の部分に古第三紀に南へ傾動し、中新世前期には隆起・平坦になり、後期中新世には北へ傾動する(3図)。この間、各basin内部では、これより小規模のblock的な差動運動がおこなわれ、箱型褶曲や撓曲・断層が形成される。

かこう岩礫からみると、ネフトンはほぼ現地産で外来のものではない。

堆積盆のタイプ	地域	現像	正統堆積物の量	火砕岩の量	構造要素(褶曲・断層)の発達の場合	堆積盆の発達期の現象の保存状態
1. 片クワ 西四出 出づつ のる域	伊豆半島	x	○	○	x	x
	丹沢山地	△	○	○	x	x
	富士川	○	○	○	○	△
	巨磨山地	○	○	○	○	x
2. 片クワ 東四出 出づつ のる域	御坂山地	△	○	○	○	x
	檜形	○	○	△	△	△
	比企	○	○	○	△	△
	奥	○	○	x	x	○
	五日市	○	○	x	x	△
3. 片クワ 出づつ のる域	三浦	○	○	△	○	x
	相模	○	○	△	○	○

1 図 南部フォッサ・マグナ地域における新生代の堆積盆の堆積物と内部構造の比較 角田(1977) 構造地質研究会誌 21号 24-26

- 1 図 南部フォッサ・マグナ地域の中生代末から更新世にかけてのbasinの発達様式
- 白紀末の隆起
 - 古第三紀
 - ◎ 中新世前期
 - ◐ 中新世中期
 - ◑ 中新世後期
 - ◒ 更新世
 - ◓ 更新世前期



矢印は堆積運動(撓曲倒し運動)の移動方向

3 図 関東山地から丹沢地域にかけての構造発達断面

